

環境で地方を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業 キックオフミーティング発表資料

活動団体名：徳之島地区自然保護協議会

活動地域：鹿児島県徳之島

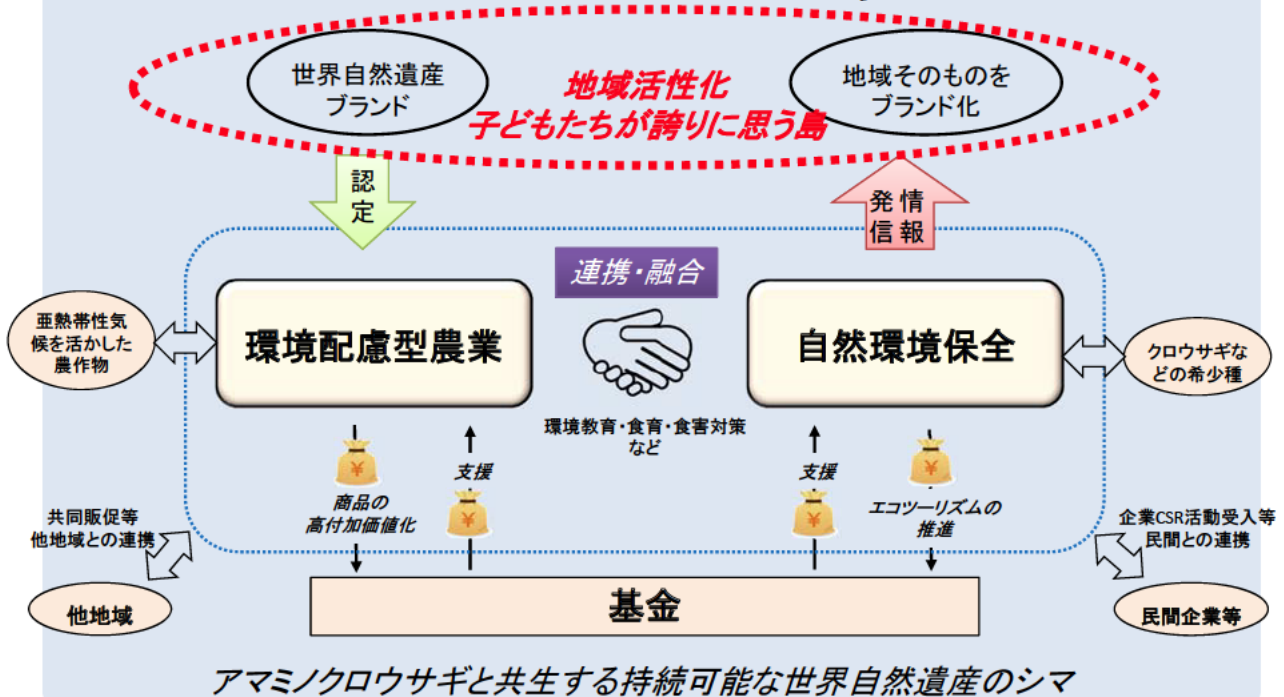
(2020年 世界自然遺産推薦地)

活動におけるテーマ

アマミノクロウサギと共生する
持続可能な世界自然遺産のシマ

地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿

◆地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿



地域の現状と課題

地域の現状

◎地域の概要

鹿児島県の離島,人口約2万3千人
世界自然遺産推薦地,高い出生率
基幹産業農業

◎活動地域の特性

強み アツクナリヤスイ島
弱み サメヤスイ島

◎活動地域にある地域資源

自然,農作物(サトウキビ・バレイ
シヨ・熱帯果樹等) 文化・歴史(闘牛)

課題

◎現状から考える地域の課題

自然：地域住民の理解・認識不足
農業：地理的条件による不利性,販促力の弱さ
共通：希少種による食害等による軋轢や連携不足

◎今後取り組むべき課題

2大地域資源である自然と農業の連携

◎課題の中で地域循環共生圏を活用し、解決しようとする課題

・世界自然遺産ブランドの立ち上げによる農業の高付加価値化
・ブランド利益を活用した自然保護基金の立ち上げ

地域循環共生圏を活用して目指す地域の実現のために

| フロー | 関係者・ステークホルダー |
|---|---|
| 自然保護関係者と農業関係者による協議 (現状の課題整理や方針の話し合い) | 関係行政機関・自然保護団体 農協・各生産者組合等 |
| ↓ | |
| 地域コンソーシアムの立ち上げ | 関係行政機関・自然保護団体・農業関係 団体・観光関係団体・経済関係団体等 |
| ↓ | |
| ブランド化に向けた具体的協議 (例:くろうさぎかじっタンカン・黒うさぎ黒糖など) | 地域コンソーシアム |
| ↓ | |
| 情報発信・販路拡大へ向けた協議 | 地域コンソーシアム 地域おこし協力隊や他地域との連携 |
| ↓ | |
| ブランドの確立・自然保護基金の運用 | 地域全体 |

自然と農業の連携による高付加価値化により経済活動と
自然環境保全が循環する持続可能な世界自然遺産のシマの確立

今後の事業取り組み予定

◆地域の現状、課題、現在の取組状況を踏まえ、今後本事業をどの様に取り組んでいくか。（具体的な事業内容）

- 徳之島に適した環境保全型農業のあり方検討。
- 世界自然遺産ブランド立上げ。
- SNS等による広報周知。販路・販促方法の確立。
- ふるさと納税との連携。
- 自然保護基金の立上げ。
- 基金を活用した環境教育活動や希少種による食害対策、農産物での食育など。
- 企業CSR活動受入やニーズ調査等での民間知見の活用・連携
- 他の世界自然遺産地域や環境保全型農業推進地との連携。

◆地域循環共生圏を構築する上で、今後必要となるものは何か。

- 中心となる人物。（地域コーディネーター）
- 地域の理解、協力。
- ビジョン達成までのプロセスの共有化。
- 先進地事例や専門的立場からの助言

スケジュール（令和元年度）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------------|----|----|----|-------------------|----|----------------|----------------|-----------------------|-----|---------------------------------|----|-----------------------|
| 事業全体の予定 | | | | ◇請負業者決定 ◇事務局設置 | | | 現地意見交換会 | | | ◇中間報告書提出期限 活動団体成果報告書提出◇ | | ◇成果発表会 ◇シンポジウム |
| ビジョンの策定 | | | | | | | | ◇関係機関を交えた 第1回意見交換会 | | | | ◇関係機関を交えた 第2回意見交換会 |
| ステークホルダーの巻き込み | | | | | | ◇事業の中心となる人物の抽出 | ◇ステークホルダーへの声かけ | | | ◇第1回以降交換会を踏まえた ステークホルダーへの声かけ | | |